

# タイ海外研修

地区インターアクト委員会  
大阪RC

委員長 **上野 昌也**

2008年8月6日から3泊5日の日程で、担当校：相愛学園高等学校・提唱クラブ：大阪RCにより、国際理解を深めるためタイ3330・3350地区IACを訪問しました。結団式では横山G他お見送りの方々からエールを送られ、緊張の面持ちで出発しました。訪問団員は当地区相愛学園、清風、大阪桐蔭、浪速、四天王寺、金光八尾のインターアクター34名、顧問7名、ロータリアン7名、総勢48名です。

今回の研修はタイの文化及び生活に触れ、互いに理解を深めるというものです。

1日目は3350地区のクライGもお見えになり、インターアクター、ローターアクター、3330・3350地区ロータリアン、現地小学生と一緒に小学校の敷地内にあるマングローブの林で、開発が進み減少しているマングローブの植樹を行いました。タイにおいても資源環境を守ろうという活動が行われています。

夕刻からタイとの交流会を行いました。タイからは3350地区インターアクト委員長ピダ様・カセマチャイPGをはじめ35名が参加、日本からは花笠音頭を、タイからはタイ舞踊を披露するなど、日タイの交流を深めることができました。更に、WCS活動のプロジェクトの「眼鏡寄贈プロジェクト」にも協力し、日本から1200本の眼鏡フレームを届けました。

2日目にはタイの主要産業を知ることが目的に、

ミタポン砂糖工場を訪問しました。往路・復路ともバンコク市内で渋滞にはまってしまいましたが、これもバンコクの生活実態を知るいい機会でした。

夜の交流会では、タイの王室が主導し、チェンマイ県を中心とした山岳民族を貧困から救済しようとして始まったロイヤルプロジェクトの状況についてメジョ大学のアコム教授からレクチャーを受けました。また前日に続きタイのインターアクター20名、さらにはタイで唯一の日本人高校である如水館高校の生徒13名が参加し交流を持ちました。

最後の日には、タイのインターアクター30名と一緒に昨日の製糖工場とは違い伝統的な椰子砂糖工場を見学、次に現地の人々が実際に生活のベースとしている水上マーケットを見学しました。

午後は、現地の食品、衣料品を売る店だけではなく、携帯電話やパソコンの店が立ち並び、客もアジア系、西洋系等の観光客とタイ人が混雑とし国際色あふれる巨大ショッピングセンターを訪れました。そして最後に解団式を行い、無事帰路につきました。

今回の研修旅行はこのように、タイの日常文化そして生活に触れ、相互理解するうえで十分に有意義であり、今年度のRIテーマ「夢をかたちにした」というスローガンの実現にも役立つものであったと確信しています。

